

鳥の声ひびけ 緑のシンフォニー

風薫る五月。第42回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」が、常陸宮殿下・同妃殿下をお迎えして、南阿蘇アスペクタで開催されました。



野草園にて探鳥される常陸宮殿下・妃殿下(高森町)



いま本県では「魅力のある田園文化圏の創造」を目標として掲げ、そこに於いて知的な創造的な活動がいとなまされるエキサイティングな田舎をつくっていく。『在来の日本』のすばらしい面をここにおいて再現していく。ということによって様々な施策にとりくんでおります。

ここにおいて、あくせくと仕事に追いまわられて、ワークホリックといわれるようなことではなく、「人生の意味と目的」というものを十分かみしめながら、自分の存在の手応えを確かめながら生きていける、そういう環境をつくることをめざしているところです。



(中略)

ところで皆様方のなかには「アマツバメ」という鳥の名前を聞かれた方もあるかもしれません。アマツバメはツバメの一種でアルプスに生息し、秋になると南へ向かって三々五々飛び立っていきます。普通のツバメが時速50〜70km/hなのに対し、アマツバメは270〜350km/hとハヤブサの急降下の時をのぞけばほとんど一番速い鳥だといわれ



ております。それだけのスピードで飛びながら、その日常は飛び続ける毎日でありまして、休まないから足はあるかないかがらに弱く小さなものしかついておりません。ちょうど、いまの日本、あるいは日本人はある意味でこのアマツバメに似ていないこともないと、ふと思ったりいたします。(中略)

私たちは、この阿蘇に代表される恵まれた自然の中で、ネオ・ルーツリズムというか、新田園主義というか、そうした基本的理念に立って、多くの鳥たちや沢山の草花や野づら渡る風の音をなによりも大事にしていきたいと思っております。

